

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ		
所在地	千葉県緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者さんの意思(想い)を大切にしています。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんにも「木かげで良かった」と感じて頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、開設から11年が経過し高齢化が進んでいるが、日中は全員が明るい居間で過ごしている。定期的に発行している「ワッハッハ新聞」は、理念「笑う門には福来る」を象徴するように利用者や職員の笑顔が満載である。ホームでは入院した利用者がADLが落ちて戻ってくることもあるが、再びホームで受け入れる姿勢を守っている。ホームの運営環境に関しては、昨今の傾向として人材が集まりにくいという課題はあるものの、管理者、職員が連携して、利用者のために前向きでよりよいホームを目指していることがうかがえる。当該評価の家族アンケートにおいても、総合的な評価の満足度は高い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑う門には福来る」を理念とし、職員全員が見える所への掲示や、Tシャツのバックプリントとスタッフや入居者さんで着用。共有・実践に繋げている。	利用者とスタッフがともに笑い合える環境を理念としている。定期的に発行している機関紙「ワッハッハ新聞」も利用者の笑顔が満載で、家族や関係者に配っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、近隣店舗(セブンイレブン・農協など)で入居者さんと一緒に買い物させて頂いたり、近隣にお住まいの方とお話したり日常交流をさせて頂いている。	地域の納涼祭やクリスマス会などに誘われて参加している。また、ホームの中庭は近隣の子どもたちに開放しており、自由に遊んでもらえるようにしている。地域のボランティアも受け入れ、職員の手助けをしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度、ホームの新聞を作り貼り出している。コンビニや農協などに買い物に行ったり、様々な行事に参加したり、普通な事を普通にしているスタッフと入居者さんとの関係(姿)を見て頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、近隣ボランティアの方や民生委員の方・入居者さんのご家族さんにも参加していただき、話し合われたことをサービスに活かすよう努めている。	各種報告のほかに毎回参加者一人ひとりの意見と感想をもらって当日の会議を振り返っている。参加者からホームに協力の申し出などもあり、運営推進会議を活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡は、管理者が主にやっている。	月に何度か市の担当窓口を訪問している。また、分かりにくいこと、不安なことは何でも相談できる関係性ができている。地域包括支援センターとは日頃から連携し、情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や日々の情報共有にて、職員同士で身体拘束についての理解を深め、身体拘束しないケアの実践に努めている。	身体拘束について正しく理解するため全員が順番に県の研修を受講できるように図っている。受講者には必ず内部研修でフィードバックしてもらっている。施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施、及び職員同士でお互いに注意しあい、虐待の理解・防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員においては、それらの制度については個々に学ぶ機会を持つ程度に留まっている。入居者さんへの必要性については、管理者が主になり関係者との話し合い・支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は管理者が行っている。締結、解約または改定の際は、十分に説明・話し合いの時間を設け、理解・納得が得られた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置している。ご家族さん来所時や電話・メールなどでも、ご意見・ご要望を伺い、話していただきやすい環境作りにも努めている。	ホームでは日頃から玄関に意見を書ける用紙を置き、活用してもらえよう家族等に伝えている。また、日程調整をしてケース会議にも出席を依頼して意見をもらうようにしており、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案については管理者が主に聞き、管理者が代表者との話し合いを設け反映に努めている。	職員の就業環境に関する意見、要望や費用がかかる備品の購入などについては、管理者を通して法人の代表者に伝え、意見を反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、直接来所時・或いは管理者からの報告を通して職員個々の努力・実績、勤務状況を把握し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量把握は、管理者が主に行い、代表者には管理者から報告を行っている。研修の募集は管理室の掲示板に貼り出し、参加を促し日程調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者によるネットワーク作りは行われている。職員個々における同業者との交流は、研修に参加した時に多少する程度である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご本人の困っていること、不安なことやご要望を伺う・或いはご様子から察するようにし、実際のサービス内容に繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階での、ご家族さんとの信頼関係構築には特に重きを置き、入居者さんご本人にとってより良いケアができるようにご要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階においてはご本人の情報・ご様子の共有を特に密にし、必要な支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者さんを人生の先輩として尊敬しつつ対応するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、月一度の手紙にてご本人のご様子を報告したり、来所時には共に過ごせる環境を整えるようにし、ご本人とご家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にはほとんど行くことができていないが、生活歴より参照した出生地や仕事関係の話でご本人の記憶を呼び起こしつつ、ご本人の知人が訪れた際には共に過ごして頂くようにしている。	ホームは利用者が家族と一緒に外出できるように勧め、職員が送迎を引き受けている。家族の要望があれば職員も一緒に外出先まで同行している。正月になると全員がホームに集まり記念写真を撮ることを習慣にしている家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、仲のいい入居者さん同士が共に過ごし、会話して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、イベントなどの際は連絡するようにし、時々遊びに来ていただけたり、途切れない関係を構築できている家族さんたちがいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話からの把握に努め、今現在、その方一人一人の思いに沿ったケアをしていくようにしている。	利用者の思いや意向は、夕食後やおやつ時間などにゆっくり会話することで聞くことが多い。困難な場合は表情、目の動きなどで把握するよう努めている。聞き取ったこと、感じたことはケース記録に書き留め、職員で共有している。また、特記事項は赤で記入し伝達漏れのないよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族さんに書いて頂いた生活歴を参照しつつ、ご本人のお話からも情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子をケース記録に残し、お一人お一人の一日の過ごし方や、今できることを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を開き、ご本人・ご家族さんのご要望を伺った上で、ご本人の現状に合ったより良いケアを行えるように話し合っている。会議には、希望があればご家族さんにも参加していただいている。	居室担当者が定期的に行うアセスメントや利用者の日常の記録などをもとに、計画作成担当者がケアプランを作成している。ケース会議は家族の参加も得て行われ、モニタリングは全職員が気づきを出し合い、よりよいケアにつながるよう取り組んでいる。モニタリングで話し合われた記録は家族にも送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列にてご様子を記録を残し、ケアの改善に活かしている。日常の中での変化やいつもと変わったことは特に詳しく赤字で記載し注視できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、必要なものは何かを、一人一人の状況やご要望に合わせて柔軟に行っていけるように、その都度意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店で買い物をしたり、暖かい時期には昭和の森等ヘドライブなど、緑の多い土気の地域資源を楽しんで頂けるように、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	武村内科医院をかかりつけ医として定期受診をしている。些細な変化でも、気になる点はDrに報告し、意見を仰ぐようにしている。	ホームの協力医が利用者の主治医となり、定期的に通院し健康管理をしている。急な状態の変化には往診がある。医療面で不安なことは気軽に相談ができる関係であり、利用者や職員の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、受診時かかりつけ医の看護師や、訪問看護利用時は訪問看護師へご様子を伝えるようにし、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、アセスメントシートを使い情報を速やかに入院先へと伝えている。退院時にはサマリーでの申し送りの他、日常生活における注意点も伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、ご家族さんと早い段階から話し合いを始め、必要性に応じてご家族さんの意思や主治医の意見を交え、方針を決定している。	指針は作っていないが、利用者や家族がホームでの看取りを希望した場合は、家族や医療機関、職員で連携し、できる限りの支援を行っている。過去にも職員や他の利用者が見守る中、ホームで最期を迎えた人が多くいる。重度化した場合の指針を作り、早い段階で家族と共有できるとさらによいと思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、勉強会を行い、訓練や知識の共有に努めている。実践力については、現状では個々の認識に差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練や、近隣の消防署に協力していただき消火器での初期消火訓練など行っている。	ホームでは年2回火災、夜間想定、消火器の使い方などの訓練を行っている。近年は自然災害や人災なども増えているため、今後は大地震や台風、不審者の侵入に対する訓練なども視野に入れている。備蓄は倉庫に食料、防災グッズなどを備えている。	管理者は災害対策への意識も高く、様々な訓練が必要と考えている。今後も継続した訓練を行い、利用者の安全確保に努めて欲しい。また、近隣との協力体制についても一歩進んだ具体的な話し合いを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合わせた言葉使い(敬語で話す方には敬語で返すなど……)を心がけ、お一人お一人の人格を損ねない言葉かけに努めている。	利用者のプライドを傷つけないような言葉かけに努めている。呼び方も本人や家族の希望で対応している。また、職員が不適切な発言をした場合はその都度、管理者が注意を促している。個人情報の保護については、職員採用時に口頭で説明し同意書をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で思いを伺ったり、自己決定できる方には、選んでもらう機会を作るなど、入居者さんが意思を示す機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんご本人に危険が及ばない場合は、入居者さんご本人を第一に考え、その人のペースで過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り、整髪など、働きかけたり介助したりして行って頂いている。女性の方には、時々マニキュアやお化粧品などをしていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けなど、入居者さんが出来ることは一緒にしていただいている。手伝って頂いた時にはお礼を必ず伝えている。	朝食は職員が手作りし、昼食、夕食は食材会社からの取り寄せで業者の調理員が作っている。訪問当日は野菜のカットを楽しそうに手伝っている男性利用者の姿が見られた。重度化が進み揃ったの夕食は徐々に難しくなってはいるが、月1回は利用者のリクエスト食を提供するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し把握に努めつつ、不足しがちな方にはこまめに勧めたり、ミキサーやトロミ付け等必要に応じて形態を工夫しつつ摂取支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行って頂いている。入居者さん一人ひとりに合わせ、声掛けや介助、吸引歯ブラシの使用など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄ペースの把握に努めている。特に食事の前にはトイレ誘導をするようにしている。	立位の取れない利用者もいるが、日中は全利用者にてトイレでの排泄を支援している。夜間帯は一人ひとりの希望に沿った支援をしている。ホームでは一律に定時誘導を行うのではなく、できる限り以前の生活パターンに合わせトイレ誘導を行っており、オムツの使用が減った事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットマッサージや乳製品・オリゴ糖などの摂取、運動などで排便を促しつつ、便秘薬と併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めていないが、時間帯は職員の人数が多い日中を主に入浴声掛けしており、夕方から夜間帯には積極的な声掛けを行っていない。その分気持ちよく入浴して頂けるように、その人に合わせた声掛けに努めている。	利用者の重度化が進み2人介助での入浴支援が増えている中で、時間帯の希望などには対応できないこともあるが、体調不良がない限り、週に2~3回は全利用者が入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように室温の調節や、物音には配慮するようにしている。足先など冷えやすい方には、湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しく内服ができるように、セット時、持ち出し時、内服前など、複数人数で多重に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できること、好きなことを把握し、手伝って頂いたり、好きなことをして頂くことで木かけでの役割を持ち、生き生きと生活していただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望を全て叶えることは難しいが、ちょっとした買い物など一緒に行けるように支援している。	近くのコンビニへの買い物や外食の希望などは個別に対応している。天気の良い日は広い中庭を散歩したり、手すりがある場所で機能訓練を兼ね歩く利用者もいる。また、花見や初詣などで外出の機会をつくらせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は個人でお金を所持していない(所持しているのは現在一名のみ)が、買い物などの時はできるだけご本人が好きなのを買うように意思を伺っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方はいるが、それ以外でご本人側から電話をする機会は設けられていない。ご家族さんや、知人の方からの電話で直接話せるように支援することはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に注意し、エアコンやカーテンなどで調節している。クリスマスなどの時は飾りつけを行い、季節感を出している。スタッフの立ててしまっている音をもう少し考えるようにしたい。	日中はリビングで過ごす利用者が多く、職員は温度、湿度計を見ながら、快適に過ごせるよう配慮している。ユニット間の行き来も自由に利用者の行動を制限しないよう努めている。訪問当日はリビングに3段飾りの雛人形が飾られており、季節が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間において、気の合う方同士一緒に過ごしたり、一人ひとり好きな場所で過ごせるように居場所の工夫や、職員が間に入って会話を繋げるなどの支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでの生活でご本人の馴染みのもの、使い慣れた物などを置かせていただき、その人の過ごしやすい空間を作るようにしている。	居室にはミシンや鏡台、タンスなどが持ち込まれており、在宅当時の雰囲気を感じられた。掃除も行き届いており、清潔で安心して過ごせる部屋をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるように、廊下・トイレには手すりを設置している。また、車椅子でも安全に移動できるように、障害物などには気を付けている。		